

さがみはら

発行：相模原市総務課市史編さん室

市史編さんだより

第2号 2001.8.31

「市史編さん審議会」が発足

7月31日、市史編さんに関する重要な事項について、市長の諮問に応じて調査・審議する機関として、「市史編さん審議会」が発足しました。

当日は会議の開催に先立ち、委員の委嘱が行われ、小川市長から各委員に委嘱状が手渡されました。審議会の委員は10名で、先に公募を行った2名の市民公募委員のほか、各科学分野の研究者、学校教育、市民研究団体の代表者で構成されています。

委員の公募には6名の応募があり、5月25日に開かれた公募委員選考委員会の結果、福田清美氏(旭町在住)と渡邊浩貞氏(大野台在住)の2名が選ばれました。県内の多くの市や町で、市史・町史の編さんが進められていますが、住民から委員を候補しているところは、まだほとんどありません。また、学識経験者の委員には、現代史の編さんを意識して、日本史の専門家だけではなく、環境科学や文化人類学の専門家にも加わっていただいております、これもあまり例を見ないことです。

委嘱式に引き続き、第1回の審議会が開催され、委員及び事務局職員の自己紹介の後、正副会長の選出が行われました。その結果、会長に明治大学農学部教授(微生物学/環境科学)の山下義幸氏が、副会長には桜美林大学国際学部教授(文化人類学)の高橋順一氏が選任されました。

委員は上記4名のほか、岩橋清美氏(江戸東京博物館専門研究員)、大塚靖夫氏(市立若松小学校長)、長田かな子氏(元市史料調査専門員)、河本浦吉氏(さがみはら地名の会会長)、神崎彰利氏(市立博物館長)、鶴巻孝雄氏(東京成徳大学人文学部助教授)の6名です。

その後、「会議運営規定」が制定され、「市史編さんの基本的な考え方について」の諮問書が手渡されました。なお、答申は年明けの1月を目途に行われる予定です。



市町村史編さんの動向

1. はじめに

市史編さん室では、4月の開設以来、県内各地の市史・町史の編さん室にお邪魔し、情報収集に努めてきました。5月から7月までの3か月間に、13か所の編さん室を訪ね、編さん体制・編さん計画・資料の収集と保管・出版状況、関連事業などについて調査すると共に、市史・町史関連出版物の収集を行いました。また、遠方の編さん室については、電話や文書により協力をお願いし、手元に収集された市町村史は、北は北海道の函館市から、南は熊本県の一宮町に及んでいます。

ここでは、調査させていただいた、県内の市史や町史編さん室の状況から、その動向を探るとともに、全国で刊行されているユニークな市町村史のいくつかをご紹介しますと思います。

2. 県内の市史編さんの動向

現在、神奈川県内のほとんどの市町村に、市町村史の編さん室もしくは編さん担当が置かれており、編さんの動きがない市町村はわずか2～3にすぎません。神奈川県下では、編さん室相互の連携機関として「神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会」が設置され、県内37市町村のうち、28市町、32機関が加盟しています。

さて、市(町)史編さんは現在、各地で盛んに進められていますが、県内で最も初期の市史はすでに戦前に刊行されていて、『川崎市史』と『横浜市史稿』があります。しかし、現在のような形の市史編さんが進められたのは昭和30年代以降のことで、昭和31年から『鎌倉市史』、同33年から『横浜市史』、そして同39年から『相模原市史』、同45年からは『藤沢市史』の刊行が始まりました。その後、『神奈川県史』の刊行が昭和45年から始まったこともあり、昭和50年代後半から市史、平成期に入って町史の編さんのブームとなりました。こうした流れを見ると、『相模原市史』は県下市史の先駆けとして刊行されたことがわかります。

市(町)史編さんのきっかけは、大半が市(町)制施行何十周年という記念事業で、『相模原市史』も市制施行10周年記念事業として刊行されています。今回の続編も、平成16年11月の市制施行50周年記念に向けての刊行となります。

刊行の量を見ると、『神奈川県史』の全36巻、『横浜市史』の全29巻は別格として、7巻から15巻構成という市史・町史が大半を占めています。第1巻刊行までに、調査や資料収集に10年以上の歳月を費やしている編さん室は多く、さらに第1巻刊行から完結に至るまでも10年以上の歳月が費やされており、20～30年かけて完結という市史は少なくありません。昭和30年代から40年代に刊行された市史は、通史編と資

料編から歴史のみを記述したものが中心でしたが、ここ10～15年位のあいだに刊行されているものを見ると、別編という形で、考古編・民俗編・自然編・社寺編・美術工芸編・地図編などさまざまなジャンルのものが出されています。別編では、市町村の特色を出そうとする試みもなされていて、『秦野市史』の「たばこ編」、『逗子市史』の「漁業編」、『小田原市史』の「城郭編」などはその一例と言えます。

相模原市では、続編編さんが今年度のスタートとなりましたが、県内では、初期に編さんが進められた横浜市や藤沢市で、すでに現代史を中心とする続編の編さんが進められています。『横浜市史Ⅱ』はすでに9巻12冊刊行されていて、続編とは言え、かなりのボリュームのものが刊行されています。

3. 新しい市史のスタイル

現在、各市町村から刊行されている市町村史は、記念事業で作成されるということもあって、重厚(場合によっては1000ページ以上のものもある)でハードカバー・箱入りというのが相場になっています。また、内容もほとんどが文章で構成されたものとなっているため、難しいとか取り付きにくいというイメージが持たれているようです。

しかし、近年は、こんな市史の堅いイメージを打破しようとする試みが、各地で始まっています。市民向けに読みやすくするため、『福生歴史物語』のように、オールカラーでダイジェスト版や普及版を作成したり、『図説ふじさわの歴史』や『図録さむかわ』のように、図説や写真集を刊行する市町村が多くなっています。さらには、『まんが大和の歴史(全5巻)』や『まんが久瀬村100年史』(岐阜県)に見るようにマンガ版のものまで登場しています。

このほか、重厚長大型の市町村史への反省から、熊本県の一の宮町では「阿蘇選書」のタイトルで新書判全12巻の町史を刊行しています。また、福島県会津若松市では、今流行の週刊歴史雑誌の形態をとって、A4変形判オールカラー全25冊の市史を刊行しています。この会津若松市では、「市史ビジュアル版」も設定し、CD-ROM版、ビデオ版という新しいメディアでの市史づくりにも取り組んでいます。

4. おわりに

各地の市町村史を拝見させていただき、21世紀を迎えた市史づくりは着実に変わりつつあることを実感しました。しかし、どのような形態でつくるにせよ、基礎となる資料の収集や調査には、十分な時間と予算、そしてスタッフが必要です。このような地道な資料収集、調査研究があって、はじめて完成に漕ぎつけることが出来るのです。

最後に、ご協力いただいた各市町村史編さん担当の皆様へ、改めてお礼申し上げます。

(学芸員 浜田 弘明)



編さん室の動き (6月～7月)

月	日	内 容
6	5	綾瀬市市史編集係へ視察調査
	7	星が丘公民館高齢者学級講師派遣(浜田学芸員)
	8	藤沢市文書館へ視察調査
		寒川町町史編さん課へ視察調査
	12	市史編さん打合せ(若松小学校)
	15	平塚市博物館市史編さん担当へ視察調査
		市史参考図書納入
	21	厚木市市史編さん係へ視察調査
		茅ヶ崎市市史編さん室へ視察調査
	23	市史編さん打合せ(東林公民館)
7	30	上溝・今井テル氏宅資料調査・収集
		「市史編さんだより」創刊
	3	主要事業ヒアリング(本庁)
	6	伊勢原市市史編さん担当へ視察調査
	10	「市史統編刊行事業について」主管会議
	12	大磯町図書館町史編さん担当へ視察調査
23	グループウェア(庁内ネットワークシステム)設置工事	
31	「市史編さん審議会」委員委嘱式・第1回会議	

「市史編さん室」が発足して5か月が過ぎました。備品も資料もゼロからスタートした編さん室にも備品が揃い、書架は集った市史類や参考図書で、早くもあふれようとしています。また、審議会も4か月目にして立ち上げることができました。

なお、増島主任が出産のため、しばらくお休みすることになりました。

引き続き、どうぞご愛読ください。

「さがみはら市史編さんだより」第2号

発行 平成13年8月31日

編集 相模原市総務部総務課市史編さん室

〒229-0021 神奈川県相模原市高根3-1-15 市立博物館内

TEL 042(750)8025 / FAX 042(750)8061